

がくしゅうかだい（2ねんせい）



【こくご】けいかくをたててすこしずつとりくんでいきましょう。

＜べんきょうすること＞

◆「かんさつ名人^{めいじん}になろう」（きょうかしよ 52～57 ページ）にとりくみます。
いきものやしよくぶつをかんさつして、さいごにきろくする文しょうを書きべんきょうです。

①いきものやしよくぶつから、かんさつしてみたいものをきめます。
※いえの中や、いえのちかくにかんさつするものがないときは、
本（ずかんなど）やしやしんをつかってもいいです。

②きょうかしよ 53 ページを読み、かんさつするときの6つのポイントをたしかめます。

③6つのポイントをかんがえながら、かんさつしてみましよう。かんさつしたことをメモしておきましよう。

（れい1）

※ずかんやしやしんをつかうときは、大きさや形、色など、見てわかることをメモしましよう。

※（れい2）のように、ポイントを表にして書いてもいいです。

（れい1）

きんぎょ 六月〇日 晴れ
・あかいろとくろいろがある。 ・口をばくばくさせている。 ・ぼくの手のグーぐーの大きさだ。 ・よくに話しかけているみたいだ。

（れい2）

ようす	大きさ	色	きんぎょ
口をばくばくさせている	ぼくの手のグーくらい	あかとくろ	六月〇日 晴れ

※できたら、「～みたいだ。」「～のようだ。」ということばをつかってみましよう。（手のひらみたいだ。ほしのかたちのようだ。など）

◆あたらしいかん字「店（59 ページ）」～「海（59 ページ）」まで、とりくみます。

＜保護者による関わり方のポイント＞※可能な範囲でお願いします。

- ・「大きさはどのくらいかな？」「色、形はどんな様子かな？」などと観察するものの様子や動きを言葉にできるよう、声かけをしてあげてください。
- ・次回の学習では書きためたメモから文章を作成していきます。ご家庭に付箋があるようでしたら、観察したことを一つずつ付箋にメモすると、文章を構成する際に順番を入れ替えたりすることが可能になります。（例）

あかとくろ

口をばくばく

手のグーくらい